

# 島根大学環境報告書

SHIMANE UNIVERSITY ENVIRONMENTAL REPORT

2025



# 環境報告書2025 CONTENTS

01 学長からのメッセージ	1	04 環境教育・環境研究	16
02 本報告書の対象範囲と大学概要	2	① 環境改善に資する豊かな人材育成	
① 本報告書の対象範囲		② 研究成果による環境改善	
② 大学概要		③ 環境研究成果の普及推進	
③ 島根大学環境マネジメントシステム（EMS）体制図		05 グリーン購入の促進	20
03 島根大学の環境への配慮に関する考え方や仕組み	5	① グリーン購入の方針	
① 島根大学憲章		② グリーン購入・調達の状況	
② 島根大学環境方針		06 環境に配慮した具体的な取組	22
③ 島根大学SDGs行動指針		① 快適な学内環境の構築	
④ 環境マネジメントシステム（EMS）によるこれまでの主な取組		② 省エネルギー等による継続的な環境改善	
⑤ 環境マネジメントシステム（EMS）の見直し		07 教育・研究活動に関するインプット・アウトプット	25
⑥ 2024年度の環境目的・目標評価結果		① 2024年度のインプット・アウトプット	
		② エネルギー消費等の経年データ	

## 本報告書と環境報告ガイドライン（2018年版）との対照表

この環境報告書は、環境省が発行した「環境報告ガイドライン（2018年版）」に基づいて作成しています。

ガイドラインの項目		本報告書の該当ページ数
環境報告の基本的要件		
1. 環境報告書の基本的要件	(1) 報告対象組織	2
	(2) 報告対象期間	2
	(3) 基準・ガイドライン等	目次
	(4) 環境報告の全体像	目次
2. 主な実績評価指標の推移	主な実績評価指標の推移	-
環境報告の記載事項		
1. 経営責任者のコミットメント	重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	1
2. ガバナンス	(1) 事業者のガバナンス体制	4
	(2) 重要な環境課題の管理責任者	4
	(3) 重要な環境課題の管理における取締役会及び業務執行組織の役割	-
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	(1) ステークホルダーへの対応方針	-
	(2) 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	6～9、16～19
4. リスクマネジメント	(1) リスクの特定、評価及び対応方法	-
	(2) 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け	-
5. ビジネスモデル	事業者のビジネスモデル	5、6、12～15
6. バリューチェーンマネジメント	(1) バリューチェーンの概要	-
	(2) グリーン調達の方針、目標・実績	20～21
	(3) 環境配慮製品・サービスの状況	20～21
7. 長期ビジョン	(1) 長期ビジョン	6
	(2) 長期ビジョンの設定期間	6
	(3) その期間を選択した理由	6
8. 戦略	持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	6～9
9. 重要な環境課題の特定方法	(1) 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順（実施手順）	11
	(2) 特定した重要な環境課題のリスト（判断結果）	11
	(3) 特定した環境課題を重要であると判断した理由（判断基準）	11
	(4) 重要な課題のバウンダリー（事業活動の範囲）	11
10. 事業者の重要な環境課題	(1) 取組方針・行動計画	11
	(2) 実績評価指標による取組目標と取組実績	25～27
	(3) 実績評価の算定方法	25～27
	(4) 実績評価指標の集計範囲	25～27
	(5) リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	-
	(6) 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告	-

# 01 学長からのメッセージ



島根大学は大学憲章において、「自然と共生する豊かな社会の発展に努める」とともに「環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える」と謳い、教職員、学生が協同して環境改善に努めています。

また、2019年には島根大学SDGs（持続可能な開発目標）行動指針を掲げ、全学としてSDGsの達成に向けて活動するとともに、地域と強く連携し、学生のSDGs意識を高める教育に取り組んでいます。

その取組は、島根大学SDGs行動指針を掲げる前から始めており、現在は、環境マネジメントシステム（EMS）をSDGs達成のための1つの取組と位置付けて活動しています。

具体的には、ISO14001の認証取得を全学の基本方針とした後、2008年までに附属病院を含む全てのキャンパスにおいてISO14001の認証を取得しました。さらには2013年度から松江キャンパスでは認証による取組から自立的なEMS活動に切り替え、「松江キャンパスEMS改善委員会」を評価組織として設置し、各部局が中心となってPDCAサイクルによる環境改善を図るなど、新たなステージにおける活動を実践しています。出雲キャンパスでは、ISO認証の外部審査項目をクリアする以上の柔軟な体制を構築したことに伴い、2023年8月にISO認証を終了し、「出雲キャンパスEMS委員会」を評価組織としました。

その後、2024年にSDGs推進会議を立ち上げ、これまで各理事等により進めてきたSDGsに関する個別の取組を、より一層推進させるための体制を整えるとともに、「人も大学もサステナブルキャンパス」等の組織的な方針を定めました。また、学生や教職員がSDGs達成に向けた活動を島根大学が公認する制度として「SDGsユニット」を整備しました。

本学は、附属病院をはじめ多くの実験系研究室をもつ環境負荷が大きい事業体ですので、環境改善への取組は本学の大きな社会的責任です。

島根大学は、EMSをSDGsの17のゴールと関係付け、2050カーボンニュートラルの実現等に向けて、SDGsに資する研究による社会への還元やSDGsへの意識を強く持った学生の育成により、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

「島根大学環境報告書2025」をご高覧頂きまして、お気づきの点等ございましたらご指摘・ご指導いただければ幸いです。

島根大学長 大谷 浩

## 1 本報告書の対象範囲

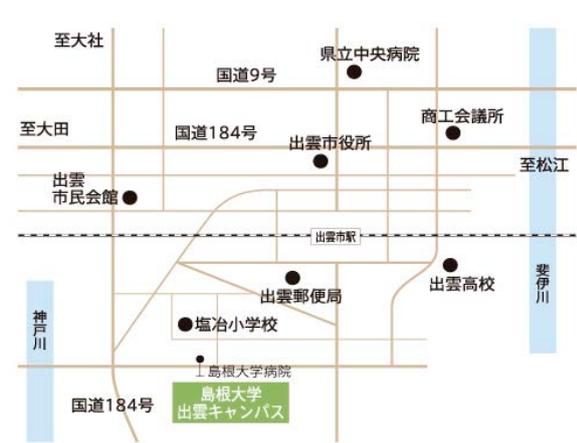
- 対象期間 …… 2024年4月から2025年3月まで（対象期間外の事項については当該箇所に明記）
- 適用範囲 …… 国立大学法人島根大学 松江キャンパス及び出雲キャンパス

## 2 大学概要（2024年5月1日現在）

- |                                      |                         |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| ● 創立年 …… 1949年                       | ● 学生数(学部・大学院) …… 6,138人 | ● 病床数 …… 600床           |
| ● 敷地面積 6,478,791 m <sup>2</sup> (※1) | ● 附属学校生徒数 …… 757人       | ● 外来患者数 …… 310,055人(※2) |
| ● 延床面積 293,259 m <sup>2</sup> (※1)   | ● 教職員数 …… 2,464人        | ● 入院患者数 …… 193,772人(※2) |

※1：材料エネルギー学部棟等の  
新棟完成後となる  
2025年5月1日現在の数値を示す

※2：2024年度累積を示す



## 川津団地（松江キャンパス）

- 松江市西川津町1060
- 敷地面積 201,195 m<sup>2</sup>
- 延床面積 125,788 m<sup>2</sup>

	学生数 (留学生含む)	教職員
法文学部	806	52
教育学部	578	52
人間科学部	347	22
総合理工学部	1,684	101
材料エネルギー学部	169	24
生物資源科学部	890	72
人間社会科学研究所	60	-
教育学研究科	32	10
総合理工学研究科	4	-
自然科学研究科	449	-



材料エネルギー学部棟



産学協創インキュベーションセンター

## 大輪団地（松江地区）

- 松江市大輪町416-4・菅田町167-1
- 敷地面積 54,688 m<sup>2</sup>
- 延床面積 15,267 m<sup>2</sup>

	生徒数	教職員
附属幼稚園	47	7
附属義務教育学校前期課程	355	47
附属義務教育学校後期課程	355	



附属義務教育学校 後期課程校舎

## 塩冶団地（出雲キャンパス）

- 出雲市塩冶町89-1
- 敷地面積 222,625 m<sup>2</sup>
- 延床面積 134,552 m<sup>2</sup>

	学生数	教職員
医学部	922	325
医学系研究科	197	
附属病院	-	1,425



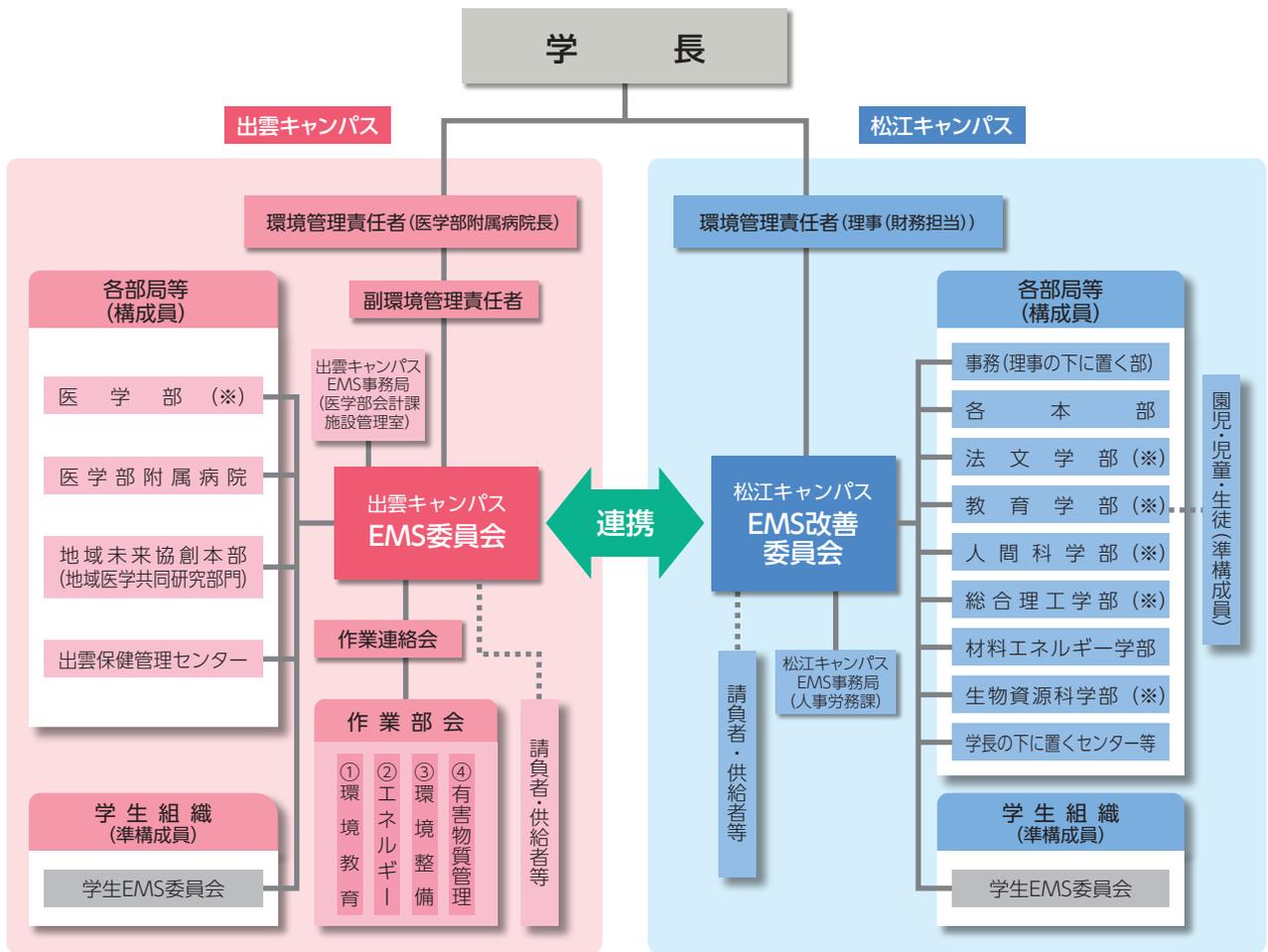
医学部附属病院 外来・中央診療棟

## その他団地

職員宿舎、学生寮、三瓶演習林、匹見演習林、隠岐臨海実験所、その他

### 3 島根大学環境マネジメントシステム (EMS) 体制図

(2025年4月1日時点)



※大学院を含む

大学憲章に基づき、自然と共生する豊かな社会の発展に努めるために、環境方針を定め、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進しています。

## ① 島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

### 1. 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。

島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

### 2. 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。

島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

### 3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。

島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

### 4. アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

### 5. 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。

島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。

## 2 島根大学環境方針

島根大学憲章に基づき、全ての教職員および学生等の協働と、最適なワークライフバランスのもと自然と共生する持続可能な社会の発展をめざして、以下の活動を積極的に推進します。

1. 環境改善に資する豊かな人間性、能力を身につけ、世界全体を視野に入れた環境改善を学び行動する人材を育成します。
2. 研究成果による環境改善、その普及により、大学内の環境のみならず、市民とも協働して地域環境および地球環境の改善に努めます。
3. 環境と人が調和するキャンパスマスタープラン作成により、知と文化の拠点にふさわしい教育・研究およびキャンパスライフに快適な学内環境を構築します。
4. 省資源、省エネルギー、リサイクル推進、グリーン購入および化学物質等の適正管理により、汚染の予防と継続的な環境改善を行って、環境関連の法令順守を徹底し、環境に配慮した教育、研究、医療に努めます。

2015年4月1日（第5版） 島根大学長

[https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policies\\_and\\_initiatives/sdgs\\_env/ems\\_policy/](https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policies_and_initiatives/sdgs_env/ems_policy/)

## 3 島根大学SDGs行動指針

SDGs（エス・ディー・ジーズ）は「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、世界共通の17のゴール（目標）、目標ごとの合計169のターゲットから構成されています。

### 島根大学SDGs行動指針

島根大学は、大学憲章において“自然と共生する豊かな社会の発展に努める”ことを謳っています。わたしたちは、不断の教育・研究・医療等の活動はもとより、地方創生の推進、平和な国際社会の発展とインクルーシブな社会の実現に寄与する人づくりを通じて、SDGsの達成に向けて活動することにより、持続可能な社会の構築に貢献します。

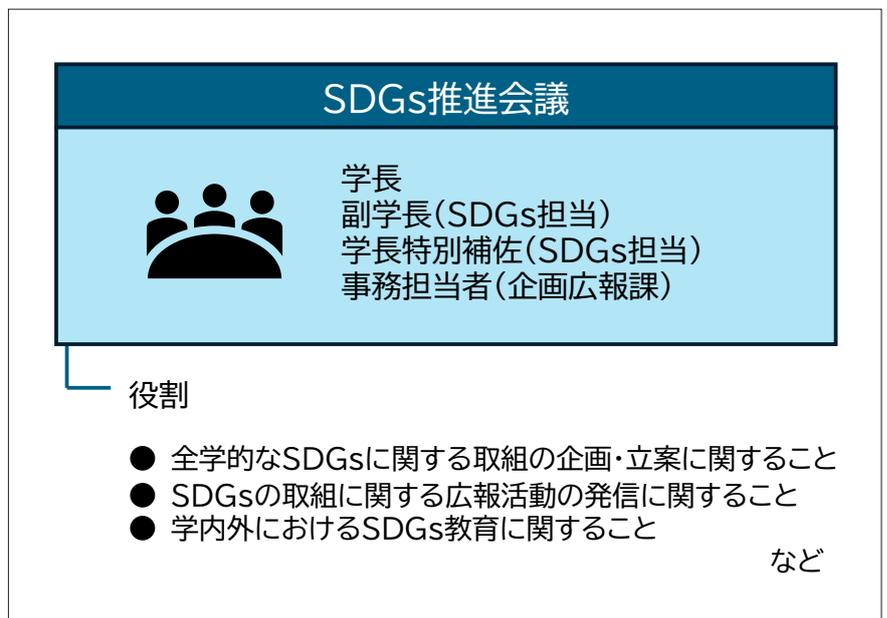
特に、島根大学の地理的特性を生かし、自然環境の保全・継承のため、地域と強く連携し、あわせて学生のSDGs意識を高める教育に努めます。

2019年11月14日 島根大学長

### 島根大学におけるSDGsへの組織的取組

島根大学は2024年度、学長のガバナンスのもと、「SDGs推進会議」を立ち上げました。これにより、これまで「島根大学SDGs行動指針」のもと、各理事や担当課の所掌により進めてきたSDGsに関する個別の取組を、より一層推進させるための体制を整えました。

SDGs推進会議では、SDGsに関する具体的な取組の企画・立案を行い、取組方針を示すとともに、それを全学で共有することで、本学におけるSDGsに関する意識醸成、及び教育・研究・社会貢献における取組の更なる推進を図ってまいります。



## 2024年度の取組のハイライト

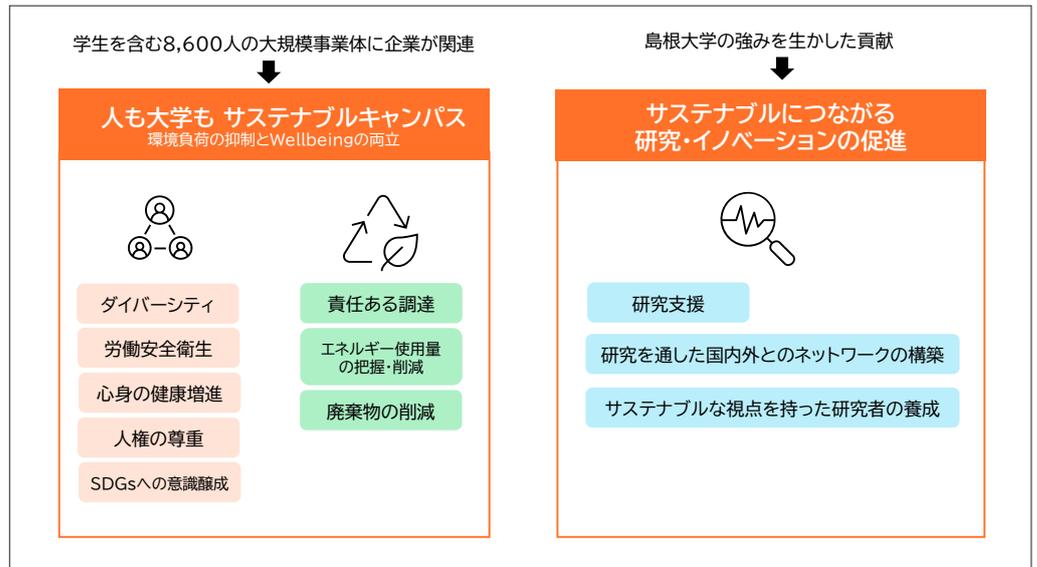
### 1. 組織的な方針の決定

島根大学の持続性に関わる価値の増強に向け、影響力の大きい分野（中核）から取り組むことを目指して、2つの取組方針を定め、取組を集中させていくこととしました。

- 人も大学もサステナブルキャンパス
- サステナブルにつながる研究・イノベーションの推進

1の「人も大学もサステナブルキャンパス」においては、本学の人員規模及び関連する企業ネットワークを踏まえ、環境やエネルギー使用への配慮をはじめ、次世代を担う学生たちに対するSDGsの意識醸成、そして心身の健康増進に対する啓発活動等を推進するものです。

2の「サステナブルにつながる研究・イノベーションの推進」においては、本学だからこそできる取組として「研究」に焦点を当てた方針で、国内外の研究者ネットワークの構築により連携して各課題に取り組むこと、また今後各ゴールバランスにも配慮した視点を持った研究者の養成等に向けた取組を推進します。



### 2. 中期目標・中期計画

第4期中期目標・中期計画において、SDGsの教育、研究面の計画を立て取り組んでいます。

2024年度、教育面ではSDGsの複数ゴールが明記されているシラバスが55.5%となり、2025年度に目標とする70%への到達を目指します。また、地域と連携したSDGs課題の解決に向けた取組は、第4期の当初から2024年度までに23件となり、目標とする15件を上回りました。

研究面では、第4期の当初から2024年度までに、SDGs実現を推進するための研究テーマは47件を選定して取り組んでおり、またこれらのテーマによる発表論文は286件で、いずれも目標を上回っています。

#### 4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項に関する目標を達成するための措置

##### (3)-1

SDGsの観点からカリキュラムを見直し、授業科目とSDGsとの関連付けを明確化しシラバスに記載するなど、授業内容のSDGsへの関連について学生の理解を深めてSDGsに対する意識を向上させるとともに、学内での全学的な活動に加えて、地域(自治体、各種機関、企業等)と連携したSDGsの達成へ向けた取組を行う。

##### 評価指標(3)-1

- ①第4期中期目標期間中に全ての学部、研究科においてSDGsの観点から三つの方針の見直しを実施され、全学共通教育においてはSDGsの基礎を学ぶ授業科目を設定するとともに、専門教育においては各分野に特化したSDGs関連科目が設定されている。
- ②令和9年度において全授業の70%でSDGsの複数のゴールが反映されることがシラバスにより確認される。
- ③第4期中期目標期間中の地域と連携したSDGs課題の解決へ向けた新規の取組件数 15件

##### (3)-2

戦略的なプロジェクトを推進するため、経費配分において、SDGsの観点からの評価を加え、カーボンニュートラルを含むSDGs実現や持続可能型社会への構築を目指した研究を全学的に推進する。

##### 評価指標(3)-2

- ①第4期中期目標期間中のSDGs実現を推進するために全学として選定する研究テーマ 延べ15件
- ②第4期中期目標期間中の上記①のテーマによる発表論文 延べ100編

### 3. SDGsに関する取組 HP紹介

各教員がSDGsに関して取り組んでいる内容を、HPで取組を紹介しています。



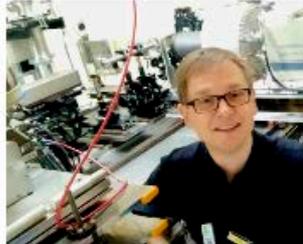
検索  島根大学 SDGs



## 取り組み事例



理科の楽しさを次世代へ～未来の先生とともに届ける科学教室～(教育学部)



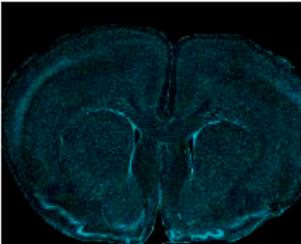
持続可能な未来のための原子レベルの洞察:高効率電気エネルギー貯蔵用ガラス材料の開発(先端マテリアル研究開発協創機構)



希土類(レアアース)鉱物資源に関する研究(総合理工学部)



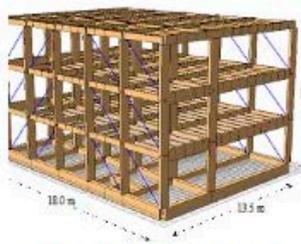
島大アンバサダによる島大グローバル月間イベント「2030SDGs」カードゲーム(グローバル化推進本部)



脳や脊髄の発生や疾患のメカニズム解明を目指す研究協力(医学部)



AI技術を用いたエスチュアリーにおける水環境問題の評価方法の構築(研究・学術情報本部)



中層木造建築物の耐震性能に関する研究(総合理工学部)



骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折治療を最終ターゲットとする人工骨ネジの開発(医学部)



#### 4. SDGsユニットの整備

学生や教職員のSDGs達成に向けた活動を、島根大学が「島根大学SDGsユニット」として公認する、新たな制度を整備しました。2025年度以降、優れた活動が期待できるユニットについては支援金を配布し、活動を広げていく予定です。



**SDGsユニット  
学生の活動募集**

支援金申込締切  
7月11日 FRI

**SDGsユニットとは？**  
学生や教員の皆さんのSDGs達成に向けた活動を、島根大学が「公認」する新たな制度です。活動のPRや外部との連携等、活動を広げるのにお役立てください。個人でもOKです。申請お待ちしております！

(例)  部活動のメンバーで定期的に海岸清掃に取り組んでいる  
 他大学の学生と一緒に発展途上国の森林保護の啓発に取り組んでいる  
 服の大量廃棄の課題解決に向けたイベントを開催している…etc

**あなたの活動を応援します！**  
必要書類の提出により、認定に加えて活動支援金を交付！

R7年度 支援額	10万円 × 2ユニット
申込 方法	①申請書、②参考費用の書類を メールで広報グループに提出してください。
締切期限	令和7年7月11日(金)

申請書等は  
こちらから  
(島根大学HP)



お問い合わせ 島根大学企画部企画広報課 広報グループ  
TEL : 0852-32-6603  
Mail : gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

島根大学 for SDGs  
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

#### 5. 【評価】

##### ① THEインパクトランキング2025

THEインパクトランキング2025は、17のSDGsそれぞれに専用の評価表が設けられ、大学がキャンパス内だけでなく地域社会全体において地球規模の課題への取組を通して評価されています。今回は世界の約2,500大学が参加しました。

島根大学は、17のSDGsのうち、必須項目である17番「パートナーシップで目標を達成しよう」を含む6つのゴールを選んで回答した結果、総合801-1000位、日本では30位でした。特に、「2 飢餓をゼロにする」が高く評価されました。

##### ② ASSC評価の結果

本学全体としてSDGsに関する取組を推進していくにあたり、現状の課題及び強み等の客観的把握を行い、今後の取組に活かしていくために、2013年に北海道大学サステナブルキャンパスマネジメント本部が開発したアンケート形式の評価システム「ASSC」に参加しました。「ASSC」は、運営、環境、教育・研究、地域社会の4部門で構成され、各部門の下に合計170個の評価基準が配置された自己評価による採点システムです。

島根大学は評価の結果、「ゴールド認証」となりました。今後、この評価結果や他大学の取組状況等を参考にしながら、本学のSDGsの取組を推進してまいります。



## 4 環境マネジメントシステム（EMS）によるこれまでの主な取組

1999年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長が開学50周年を契機に「キャンパス環境キャンペーン」を提言             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境保全型大学運営を推進するための調査検討、② ISO14001取得事前検討、③ 環境研究の推進、④ 環境教育の推進</li> </ul> </li> </ul>
2001年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江キャンパスにおいて、環境委員会およびキャンパス・アメニティー専門委員会を設置</li> </ul>
2004年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2007年度末までに環境マネジメントシステム（EMS）を構築する旨を明示した中期目標・計画の認可</li> <li>・役員会において、環境マネジメントシステム（EMS）構築にはISO14001の認証取得を基本方向として検討を進める旨を決定</li> <li>・環境委員会においてISO14001の認証取得を目指す旨を承認</li> </ul>
2005年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長による「環境方針」公表</li> <li>・松江キャンパス及び出雲キャンパスにおいてEMS実施委員会の設置</li> </ul>
2006年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江キャンパスにおいて、ISO14001認証取得、「松江市環境保全功労表彰」の受賞</li> </ul>
2007年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江キャンパスにおいて、ISO14001定期審査合格および範囲拡大審査認証取得</li> </ul>
2008年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲キャンパスにおいて、範囲拡大審査認証取得（附属病院を含む総合大学としては全国初の認証取得）</li> <li>・「第11回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 優秀賞（環境省及び財地球・人間環境フォーラム主催）」受賞</li> </ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第14回 環境報告書賞 公共部門賞（東洋経済新報社及びグリーンポータリングフォーラム共催）」受賞</li> </ul>
2012年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根大学『省エネルギー宣言』公表</li> </ul>
2013年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江キャンパスEMS改善委員会の設置</li> </ul>
2015年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境方針」の改定</li> </ul>
2018年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲キャンパスにおいてISO14001 2015規格への登録改訂</li> </ul>
2023年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲キャンパスにおいて、ISO14001認証の継続を終了</li> </ul>

## 5 環境マネジメントシステム（EMS）の見直し

島根大学では、「教職員による内部監査」及び「経営陣による環境マネジメントシステム（EMS）見直し」の取組により、環境マネジメントシステム（EMS）の見直しを行っています。

「教職員による内部監査」では、出雲キャンパスにおいて、環境マネジメントシステム（EMS）活動が計画に沿って実施されているかなどのチェックを年1回実施しています。

2024年はISO14001認証を参考とした内部監査方法に基づき、キャンパス内の規程や運用について事務局から説明を行う形式での研修を受講した教職員が内部監査員として3チームの編成で対象部局を監査しました。

2024年度の内部監査では、不適合が発見されませんでした。不適合が発見された場合は直ちに改善を行い、2025年度の内部監査でフォローアップすることとなります。内部監査結果については、観察事項を基に改善を促すために各部署への水平展開を図るべくアンケート調査を行い、内部監査をより効果的に運用しています。

「経営陣による環境マネジメントシステム（EMS）の見直し」では、キャンパスごとに最高経営者である学長による学長マネジメントレビューを実施しています。

学長に対し、年間の活動報告、法令遵守等必要な情報を提供し、その後、今後の継続的改善に向けた提言も行われました。

学長による見直し結果は、以下のとおりです。今後、この結果に基づき、より良い継続的改善につなげていきます。



学長マネジメントレビューの様子

### 出雲キャンパス

見直しを図るために提供した情報	学長からの主な提言
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回のマネジメントレビューのフォローアップ結果</li> <li>・ 環境マネジメントシステムに関連する内外の課題</li> <li>・ 各作業部会の課題</li> <li>・ 環境目標の達成度</li> <li>・ 監視及び測定の結果</li> <li>・ 順守義務の達成度</li> <li>・ 内部監査及び外部審査の結果</li> <li>・ 資源の妥当性</li> <li>・ 環境マネジメントに関するコミュニケーション（苦情を含む）</li> <li>・ 新たなEMS活動</li> <li>・ その他</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境マネジメントシステムが引き続き適切、妥当かつ有効であることに関する結論 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出雲地区の環境マネジメントシステムは一部目標が未達成な部分が生じているが、概ね適切でかつ有効な活動であることが確認できた。</li> </ul> </li> <li>2. 継続的機会に関する決定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EMSは引き続き維持することで全学的な目標である持続可能な開発目標（SDGs）、脱炭素社会の実現（カーボンニュートラル）に可能な限り協力いただきたい。</li> </ul> </li> <li>3. 資源を含む環境マネジメントシステムの変更にに関する決定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回未達成であったエネルギー部分は外的な要因もあるが、EMS活動の本質的な部分を踏まえ、次年度以降も取り組んでもらいたい。</li> </ul> </li> <li>4. 環境目標が達成されていない場合の処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EMS活動は概ね順調に実施している。</li> </ul> </li> <li>5. 他の事業プロセスへの環境マネジメントシステム統合を改善するための機会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EMS活動が全学的な目標である持続可能な開発目標（SDGs）と関連した活動であることの意識付けや大学全体のアピールポイントとして、環境報告書を参考にしてEMSニュースでも同様の表示を検討していただきたい。</li> </ul> </li> <li>6. 組織の戦略的な方向性に関する示唆 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EMS活動が全学的な目標である持続可能な開発目標（SDGs）の項目とどう関連づけられるかを整理し、持続可能な開発目標（SDGs）への意識付けとして活用できるか検討の余地がある。</li> </ul> </li> </ol>

## 6 2024年度の環境目的・目標評価結果

島根大学では、キャンパス毎に環境目的・環境目標を定め、各部局等が立案した計画に対し、それぞれが取り組んだ結果について、松江キャンパスではEMS改善委員会において、出雲キャンパスではEMS委員会において、共通の評価基準に基づき評価を行っています。

### 【評価基準】

- ◎：環境目標の内容を全て達成するとともに、一部環境目標の内容以上に達成した取組がある
- ：環境目標の内容を全て達成している
- △：環境目標の内容を一部達成した取組がある
- ×：環境目標の内容を全て達成していない

このうち、松江キャンパスでは、環境方針の内容毎に各部局が実施内容（計画）を策定しています。また、実施内容を踏まえ、他部署等でも実施してほしい事項をグッドポイントとしてまとめ、周知する工夫を行っています。

### 松江キャンパス

#### 環境方針Ⅰ.

環境改善に資する豊かな人間性、能力を身につけ、世界全体を視野に入れた環境改善を学び行動する人材を育成します。

部局	実施内容（計画）	評価	主な実施内容	グッドポイント
法文学部 (研究科含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会において教職員への基本教育を実施する。</li> <li>・新年度当初に在学生に基本教育を実施する。</li> <li>・新入生オリエンテーションにおいて、基本教育を実施する。</li> </ul>	○	実施内容（計画）のとおり、それぞれの基本教育を実施した。	基本教育の実施体制が確立されている点について評価できます。
材料エネルギー学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修授業の中で全ての学生に環境教育を行う。</li> <li>・入学時オリエンテーション配付資料での周知。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生専門必修科目「材料系エンジニアのためのエネルギー概論」を通じて、環境教育を実施した。</li> <li>・入学時オリエンテーションで、環境マネジメントシステム関係のリンク先を明示し、必ず内容を確認するよう周知した。</li> </ul>	必修授業において環境教育を実施し、入学時オリエンテーションにおいて配布資料での周知、エネルギー問題を素材・材料の視点から理解し解決するためにエネルギーに関する体系的な教育を全国に先駆けて実施した点について評価できます。
企画部 (グローバル化推進本部含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部の構成員への基本教育を実施する。</li> </ul>	◎	EMS基本教育資料を部独自で作成し、構成員に配布・周知することで基本教育を実施した。	部独自で作成したEMS基本教育資料を用いて、構成員に基本教育を実施した点について評価できます。
研究・地方創生部 (地域未来協創本部、研究・学術情報本部、オープンイノベーション推進本部、次世代たたら協創センター含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の持続性社会の構築に貢献する素形材を基軸にしたもの創り技術の創生を通し、世界を先導する人材を育成、輩出する。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境にやさしいもの創りを実現する産学協創インキュベーションセンターを設立し、教員、学生、地域企業の皆様に共用して頂き、それぞれの夢の実現に向けたアイデアの実証を目的とした研究開発・試作拠点として活動を始めた。</li> </ul>	持続性社会の実現に向け、産学協創インキュベーションセンターを設立し、地球温暖化対策に資する素材開発などを若手教員、学生、地域企業が協働で参画し、研究開発することで人材育成の場として活動を始めた点について評価できます。

## 環境方針2.

研究成果による環境改善、その普及により、大学内の環境のみならず、市民とも協働して地域環境及び地球環境の改善に努めます。

部局	実施内容（計画）	評価	主な実施内容	グッドポイント
人間科学部 (研究科含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究成果をホームページ等を通じて学外に発信する。</li> <li>教職員および学生が、市民と協働してリサイクルに取り組む。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体活動・健康科学コースの辻本健彦講師が参加する研究グループの研究成果、及び、福祉社会コースの東田全央准教授が第一編著者として取りまとめた共編著『国際ソーシャルワーク-新たな概念構築』について、学部ホームページで紹介した。</li> <li>地域の知的障害のある方に大学を活用してもらおうオープンカレッジの取り組みの際、ゴミの分別を各自でできるよう、ゴミ袋を設置し、分別を徹底した。</li> </ul>	研究成果を学部ホームページにより紹介した点について評価できます。
生物資源科学部 (研究科含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>山陰地域における農業・食品加工副産物などの未利用資源を用いた食糧・飼料用昆虫の生産および生産した昆虫の活用方法に関する研究を行い、その成果を学内や地域に発信する。</li> </ul>	◎	山陰地域の農業・食品加工副産物である麩菌床、おから等をミールワームの給与基質として活用する方法を調査し、地域の廃棄物処理企業との共同研究により2024年、松江市八束町江島にミールワームの生産施設モデルを構築した。この施設から生産されたミールワームは、従来の飼育方法から生産したミールワームより、重量当たりのタンパク質含量が高く等が大学研究により確認された。このことから、島根県の内陸養殖における養魚飼料に活用することを目標とし、島根県江津市の支援のもとで2024年12月からじげおこしPJによる共同研究に取り組んでいる。	島根県内の内陸養殖施設における新規昆虫飼料の開発を目標とし産・学・官の連携による「じげおこしPJ」に取り組んだ上、取組成果は、国内における初事例になった点について評価できます。
研究・地方創生部 (地域未来協創本部、研究・学術情報本部、オープンイノベーション推進本部、次世代たたら協創センター含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根大学の環境関連を始めとする研究の成果を、学会、講演会、市民講座、マスメディア、インターネットなどを通じて社会に広く発表する。</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>山陰中央新報主催のさかなクン講演会において、エスチュアリー研究センター全体の活動および魚やカニの生態に関するパネル等の展示協力をしました。</li> <li>エスチュアリー研究センターがホストとなり、「第18回 東ユーラシア国際ワークショップ (EEIW 2024)」をくにびきメッセなどで開催しました。</li> <li>第21回「技術コミュニティラボ」にて「磁気と機械のエネルギー変換～新材料の開発と振動発電エナジーハーベスティングへの応用～」について情報提供しました。</li> </ul>	中海・宍道湖を対象とした環境研究活動及び最新の汽水域の環境に関する研究成果等を学会、講演会、市民講座等を通して研究者から一般市民まで幅広く公表した点について評価できます。

## 環境方針3.

環境と人が調和するキャンパスマスタープラン作成により、知と文化の拠点にふさわしい教育・研究及びキャンパスライフに快適な学内環境を構築します。

部局	実施内容（計画）	評価	主な実施内容	グッドポイント
教育学部 (研究科含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に学部棟内外の巡視を行い、安全で快適な学内環境の維持に努める。</li> <li>教室内のペットボトル、ゴミの放置を無くすよう、ポスターを掲示するとともに、注意喚起を行う。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に学部棟内外の巡視を複数名で行い、雨漏りや壁の劣化などをチェックし、担当事務部へその結果を報告した。</li> <li>教室内のペットボトル、ゴミの放置禁止を啓発するポスターを主要な教室、学生研究室に掲示した。また教員研究室、学生研究室に掲示する用の「島根大学内での生活系ごみの分け方・出し方」のポスターを作成し、ゴミの分別について啓発した。</li> </ul>	安全で快適な学習環境の保持に努め、ごみの分別の仕方について理解を深めるガイダンスやポスターを掲示した点について評価できます。

総合理工学部 (研究科含む)	・毎月、学部棟の職場巡視を行い、安全で快適な学内環境の維持に努める。	◎	毎月、学部棟の職場巡視を行い、安全で快適な学内環境の維持に努めた。また、総合理工学部1号館の印刷室について、故障した印刷機や貸し出し用の備品を撤去し、室内の整理を行った。印刷機撤去の際、同じ機種を使用している学部がないか確認し、法文学部で使用していることが分かったため、予備のインクカートリッジを譲ることで、学内で有効活用した。	安全で快適な学内環境維持のため学部棟の職場巡視を行い、故障した印刷機の撤去等、利用しやすい環境に改善した点について評価できます。
-------------------	------------------------------------	---	--	--

環境方針4.

省資源、省エネルギー、リサイクル推進、グリーン購入及び化学物質の適正管理により、汚染の予防と継続的な環境改善を行って、環境関連の法令順守を徹底し、環境に配慮した教育、研究、医療に努めます。

部局	実施内容 (計画)	評価	主な実施内容	グッドポイント
材料エネルギー学部	・節電について、教職員・学生に周知する。 ・化学物質の適正管理について、教職員・学生向けに周知する。	◎	・新入生には入学時オリエンテーションで、着任教員には受入れ説明の際に、環境マネジメントシステム関係のリンク先を明示し、必ず内容を確認するよう周知した。 ・田中秀和教授を講師に、化学物質の適正管理に関する内容を含む「安全衛生教育」を実施した。	化学物質の適正管理について安全衛生教育を行い、化学物質の適正管理に関する意識を醸成した点について評価できます。
財務部	・クールビズ・ウォームビズの取組を推進するなど、冷暖房効率を向上する。 ・省エネに資するため、勤務時間内における業務の生産性を向上させ、時間外勤務時間数を減少する。	◎	・クールビズ・ウォームビズの取組を推進し、取組を実施していることを扉に掲示することにより、外部に周知しました。 ・財務部では、超過勤務時間数を減少させるという目標を部内全員で共有した。個人別、担当別及び役職別の超過勤務時間数を集計・グラフ化する「超勤時間の見える化」等を行い、課内全員に共有することにより、部内全ての課で2024年度の超過勤務時間数は、2023年度と比較して減少し、冷暖房を多く使用する時期についても成果が見られ、省エネルギーに貢献できた。	計画どおりに全て実施した上、勤務時間内における業務生産の向上により、冷暖房を多く使用する時期に時間外勤務時間を全体として、前年と比べ削減した点について評価できます。

出雲キャンパス

①環境教育 (環境研究を含む)

- 環境目的：環境に配慮した人材を育成する。
- 環境目標：環境関連授業を実施し、環境に関する倫理観・知識・理解・技能・力量を持つ人材を育成する。  
 島根大学医学部としての環境教育体制を構築する。  
 環境実践活動を実施し、実践的態度を高める。

評価	主な実施内容	実施結果
○	環境関連授業を実施	医学部の学生を対象に環境と健康に関するテーマを講義の中に取り入れ、環境教育の充実を図った。
○	環境に関する市民公開講座を行政、地域と連携して計画し、開催する	市民公開講座のテーマを「楽しく運動、楽しく交流が健康への第一歩～みんなでまめでおーましょや～」とし、市民が関心の高いと思われる内容とすることで、医学部版環境研究出前講義と位置付け可能なものとした。前年に引き続き一定数の参加者が集まり、関心の高さが伺えた。
○	環境に関する市民公開講座開催の効果的な周知方法を検討し、実施する	

## ②エネルギー

- 環境目的：二酸化炭素排出量を削減する。
- 環境目標：二酸化炭素排出量を削減する。

評価	主な実施内容	実施結果
○	電力：不在時の消灯・節電の管理・空調の温度管理	<p>運用管理点検結果により、各取組内容を実践した。エネルギー消費量については、2023年度比で電力が0.14%増、A重油は2.3%減、都市ガスは4.9%増で、全体（電力量+A重油+都市ガス）の熱量は2.1%増加、上水道使用量は3.3%増加する結果となった。</p> <p>このことは、夏季（7月～10月末）の長期的な猛暑により自家発電設備等の稼働が著しかったことや、冬季の暖房期間が例年より長く、重油使用の発電機やガスヒートポンプの稼働したことに加え、施設の老朽化に伴う機器稼働の効率低下により2023年度比で全体のエネルギー消費量は増加した。</p> <p>二酸化炭素排出量については、排出量を算出するための各係数の値が直近で変化したこともあり、0.28%減少した。</p>
	ガスエンジン発動機（旧エスコ事業）の効率管理・空調の温度管理	
	重油：重油燃料自家発電機の効率管理・焼却炉設備の効率管理	
	水：水使用量の削減	

## ③環境整備

- 環境目的：一般廃棄物の排出量を低減する。
- 環境目標：構成員、準構成員、大学・附属病院へ出入りする人々の環境配慮に対する意識を高め、一般廃棄物の排出量を低減する。

評価	主な実施内容	実施結果
○	一般廃棄物の排出量、リサイクル量、ペットボトルキャップの回収量、運用管理点検結果を集計し、ホームページ等で公表する	<p>四半期ごとに集計し、環境データとして学内向けホームページで公表した。</p> <p>10月及び11月にEMS事務局を通して、作業部会で作成したポスターを周知し、各部署に掲示を依頼した。</p>
○	教職員及び学生に駐輪場・駐車場外への駐輪・駐車禁止を要請する	駐輪場は比較的整然と駐輪が行われており、放置自転車撤去時にも適正な利用を周知した。駐車場では専任職員により駐車場指導を行った。

## ④有害物質管理

- 環境目的：毒劇物・危険物、特定化学物質の環境中への排出を減らし、危険物の安全な使用と保管を実施する。
- 環境目標：毒劇物、麻薬及び向精神薬、危険物、特定化学物質、PRTR法対象物質を管理する。

評価	主な実施内容	実施結果
○	化学物質管理システムの活用方法の周知を図る	HPに活用方法の資料を掲載し、化学物質管理システムに関する照会に対して適宜対応した。
○	毒劇物・危険物・特定化学物質等の適正管理が求められる物質の保管と使用方法の教育	
○	緊急事態に対する対応と連絡体制の訓練	2025年3月31日に緊急事態テストを実施し、放置された特定化学物質（ホルマリン）への対応手順と試薬の化学物質管理システムを利用した試薬所有候補者の検索を行った。
○	緊急事態に対する対応と連絡体制の周知・教育	
○	職場巡視の際に、実験廃液の保管状況を把握し個別に指導する	医学部・附属病院の職場巡視の際に毒劇物の実量確認と実験廃液の保管状況確認を行った。

## I 環境改善に資する豊かな人材育成

### 材料エネルギー学部における取組



材料エネルギー学部では、「エネルギー問題を素材・材料の視点から理解し解決する」ためにエネルギーに関する体系的な教育を全国に先駆けて実施しています。エネルギーに関連する授業の多くは環境改善に繋がる内容であるため、引き続き、学部の教育の充実を図っていきます。

 シラバス参照／授業情報参照

[別の条件でシラバスを参照する/Inquiry syllabus by other conditions](#)

#### シラバス基本情報

更新日時	2025/04/02 13:37:58
科目分類	専門教育科目
時間割コード	VB00461
授業科目名	材料系エンジニアのための経済事情論
授業の目的	材料系エンジニアが、視野を広げて社会で活躍できるよう、世界で現実に起きている経済事情を、基本的な経済理論や経済・社会に関する国際ルールを交え、事例をみながら学んでいく。グローバル（グローバル+ローカル）な視点から、世界や日本の経済事情をみる目を養う。
授業の到達目標	経済事情に関連するニュースを理解する際に役立つ知見や知識へのアプローチ方法を知る。
授業の内容および方法	第1回：ガイダンス 第2～7回（予定）：直近の経済事情ニュースの視聴と解説 第8～13回（予定）：将来役立つ経済学の基礎／経済年表・地図の作成 第14回：まとめ  *企業見学、外部講師による講義を行う可能性があります（未定）。

## 医学部における取組： 出雲キャンパスにおける環境教育



本学では、環境に関する知識や倫理観、技能を備えた人材の育成を目的に、環境教育の充実を図っております。島根大学医学部として、組織的な教育体制を整えるとともに、学生が主体的に関わる実践活動を通じて、環境問題への意識と行動力の向上を目指しています。2024年度は、環境に関する授業を実施し、学生の意識や行動についてアンケート調査を行いました。また、教員への調査を通じて、環境科目の現状や課題を整理しました。学生の活動支援としては、EMS推進委員会の定期開催、ニュース発行、植栽活動、キャンパスウィーク参加などを行いました。

これらの取り組みから、教育体制は定着しつつあり、重大な環境問題の発生もなく、学生の環境活動も着実に根付いてきております。一方、松江キャンパスとの合同会議が実施できておらず、学生間の交流には課題が残っています。2025年度は教育体制を維持しつつ、学生と協力的な環境美化活動をさらに推進して参ります。また、松江キャンパスとの連携強化にも注力し、活発な意見交換が行えるよう取り組んでいく予定です。



環境保健医学講座の授業風景

## 2 研究成果による環境改善

### 生物資源科学部における取組



2024年度において地域から発生する様々な未利用資源を用いたミールワームの生産検証により確保したミールワームの生産技術により、松江市内に国内初の企業型ミールワーム生産施設のモデルを構築しました。この施設により生産されるミールワームは、従来のミールワームに比べ高タンパク質であり、消化性も優れていることから、動物飼料源として十分な活用ができます。このことから2024年12月から島根県内の内陸養殖施設における新規昆虫飼料の開発を目標として産・学・官の連携による「じげおこしPJ」に取り組んでいます。以上の取組による成果は、国内における初事例にもなります。以上の取組は、焼却廃棄物の軽減、化石燃料使用による環境負荷低減、地域資源を用いた地域資源の循環型タンパク質生産、飼料源の国内自給率向上に大きな貢献が期待できます。



未利用資源の  
加工・給餌



企業型昆虫生産施設  
(写真：パイロット生産施設一部)



生産した  
昆虫・排泄物



農水畜産業に  
活用

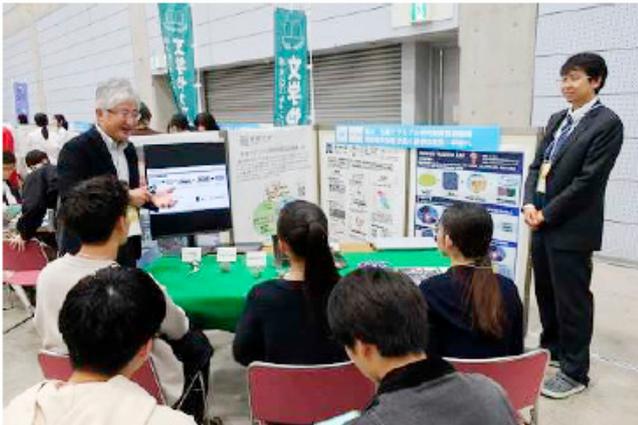
### 3 環境研究成果の普及推進



#### 研究・地方創生部における取組

山陰中央新報主催のさかなクン講演会等において、中海・宍道湖を対象とした環境研究及びエスチュアリー研究センター全体の活動を研究者から一般市民まで幅広く公表しました。特に、さかなクン講演会では約1,500の方が参加し、当センターの活動を広く知ってもらう機会となりました。

また、持続性社会の実現に貢献する素材や製品開発への取組状況を広く地域の小中高生に分かりやすく紹介する大学見学会やしまね大交流会での展示、地域企業の皆様に最先端の技術紹介を公開するNEXTAフォーラム、国際シンポジウムの主催などの活動を通し、地域の皆様と協働して持続性社会実現への取組を進めました。引き続き同様の情報提供を行ってまいります。



しまね大交流会2024における出展の様子

#### 企画部における取組



環境方針1～4における企画部EMS実施内容（計画）を同時に実行することができるEMS基本教育の資料を部として独自に作成し、構成員に配布・周知することで基本教育を実施しました。

このEMS基本教育資料は当該年度のEMS実施内容（計画）を反映し、更新することができるため、部のEMS基本教育を効率よく実施します。

**2024年度 企画部（グローバル化推進本部含む）EMS実施内容（計画） ※赤字部分**

EMS実施内容（計画）は、各部局等におけるEMS活動の指針となるもので、島根大学環境方針の4項目に関連するEMS実施内容（計画）を作成しています。

以下、赤字で示した計画1～4が令和6年度の企画部の計画です。

なお、EMSにおける年間の流れは、以下のとおりです。

P：大学の環境方針に基づき、各々がEMS実施内容（計画）を作成する。

D：EMS実施内容（計画）に基づき、各々が本年度の行動を実施する。**（今回実施部分）**

C：年度末に各々が実施内容をEMS改善委員会に報告し、EMS改善委員会がそれを評価する。

A：前項の評価を踏まえ、各々が次年度の計画等を必要に応じて変更していく。

1. 環境改善に資する豊かな人間性、能力を身につけ、世界全体を視野に入れた環境改善を学び行動する人材を育成します。  
➡ **計画1. 部の構成員への基本教育を実施する。**
2. 研究成果による環境改善、その普及により、大学内の環境のみならず、市民とも協働して地域環境および地球環境の改善に努めます。  
➡ **計画2. 本学の環境研究成果をホームページで確認し、部の構成員に周知する。統合報告書等により、研究成果を社会に情報発信する。**
3. 環境と人が調和するキャンパスマスタープラン作成により、知と文化の拠点にふさわしい教育・研究およびキャンパスライフに快適な学内環境を構築します。  
➡ **計画3. 告や販など資源ごみの分別や生活系ごみの分別を周知する。**
4. 省資源、省エネルギー、リサイクル推進、グリーン購入および化学物質の適正管理により、汚染の予防と継続的な環境改善を行って、環境関連の法令遵守を徹底し、健康に配慮した教育、研究、医療に努めます。  
➡ **計画4. 節電に関する周知を行うとともに、冷暖房の適切な温度管理を徹底する。**

次ページより計画2～4の説明を行います。  
 計画1の基本計画については、本資料を用いて部の構成員に本学の環境方針と部のEMS計画を周知徹底することにより実施します。

**島根大学 環境方針**

---

島根大学憲章に基づき、全ての教職員および学生等の協働と、創造なワークライフバランスのもと自然と共生する持続可能な社会の発展をのぞき、以下の活動を積極的に推進します。

1. 環境改善に資する豊かな人間性、能力を身につけ、世界全体を視野に入れた環境改善を学び行動する人材を育成します。
2. 研究成果による環境改善、その普及により、大学内の環境のみならず、市民とも協働して地域環境および地球環境の改善に努めます。
3. 環境と人が調和するキャンパスマスタープラン作成により、知と文化の拠点にふさわしい教育・研究およびキャンパスライフに快適な学内環境を構築します。
4. 省資源、省エネルギー、リサイクル推進、グリーン購入および化学物質の適正管理により、汚染の予防と継続的な環境改善を行って、環境関連の法令遵守を徹底し、健康に配慮した教育、研究、医療に努めます。

島根大学 環境方針

[https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policies\\_and\\_initiatives/sdgs\\_env/ems\\_policy/](https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policies_and_initiatives/sdgs_env/ems_policy/)

2

計画2. 統合報告書等により、研究成果を 社会に情報発信する ①

・「島根大学統合報告書2024」において、様々な研究成果を掲載しています。

統合報告書はホームページからご覧いただけます。TOP>大学紹介>広報>統合報告書  
[https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/report/profile\\_pamph/](https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/report/profile_pamph/)



環境負荷の抑制につながる活動

島根大学では、環境負荷の抑制につながる教育・研究等の活動に取り組んでいます。

具体的な取組としては、ミドリゾウリムシによる水質浄化や超音波による社会インフラの適切な管理等を教育・研究し、島根大学サイエンスカフェ等を通じて、社会に公表しています。

また、食堂から排出される食品廃棄物を肥料化する「食品ロスゼロプロジェクト(生物資源科学部附属生物資源教育研究センター松本真悟センター長)」を2022年度から引き続き取り組み、2023年度は、出雲キャンパスにも食品廃棄物を分解する装置を導入しました。食品廃棄物を本学オリジナルブランド肥料「キャンバスト」にし、キャンバストだけでコメを栽培したことがテレビ等で取り上げられました。

教育・研究に使用する化学物質等について、2023年度の化学物質投入量は、前年度と比較して27%減少したことに合わせて、廃液排出量も約11%減少しました。減少の要因は代替物等に切り替えたことが一因となります。



出雲キャンパスに導入した食品廃棄物を分解する装置

**島根大学食品ロス・ゼロ宣言プロジェクト**

生物資源科学部 教授 松本真悟

近年、世界的に食品ロスの削減が最大の課題となっています。島根県を中心に物産で知られる食品の産地が数多く存在する一方で、世界の食料不足が深刻化するまでにはなりません。そのため、フードリサイクルの推進が求められ、年間117トンの食品ロスが発生しています。そのため、物産から産物を生かす、食品ロスを削減する取り組みに力を入れる事を宣言しています。そのうち、島根県ではこの問題も深刻化しているため、削減する必要があります。宣言などで環境改善に取り組む「食品ロス削減」が「食料安全保障」の一環として取り組まれています。

島根大学も2022年度から年間123トンの食品廃棄物が発生しており、これはほとんどが食品廃棄物です。この食品廃棄物は、すべて食品ロスの削減に貢献できると考えます。一方で、削減された食品廃棄物は肥料成分を含んでおり、これを肥料として他用途に活用することは食品ロスを削減する上で有効な手段となります。また、島根県産の食品廃棄物を活用することで、食品ロスの削減に貢献できると考えます。この食品廃棄物を「25トン」を食品ロス削減の目標として肥料化し、その肥料を農業に活用することで食品ロスの削減に貢献できることを目指しています。この目標を達成するために、島根大学は食品ロスの削減に取り組んでいます。削減された食品廃棄物を「食品ロスゼロ」に削減するための取り組みを進めています。2023年度は、出雲キャンパスに食品廃棄物を分解する装置を導入し、食品廃棄物を本学オリジナルブランド肥料「キャンバスト」に加工し、キャンバストだけでコメを栽培したことがテレビ等で取り上げられました。

この記事に記載の「食品ロスゼロプロジェクト」については本学ホームページ内、「持続可能な開発目標 (SDGs)」に対する本学の取り組み **Check!** に詳細が載っておりますのでご確認ください!

2024年度企画部EMS基本教育の内容

島根大学では、循環型社会の形成のため、再生品の活用などの供給面の取組に加え、需要面からの取組が重要であるという観点から、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」を遵守し、環境負荷の少ない製品・サービス等の調達を推進するとともに、その実績を関係省庁に報告し、島根大学のホームページにおいても公表しています。

## ① グリーン購入の方針

島根大学環境方針（P.6参照）に基づき「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、物品・役務の調達に当たっては、環境負荷の少ない製品・サービス（グリーン購入法に定める特定調達品目）等の調達に努めています。

## ② グリーン購入・調達の状況

特定調達品目計22分野のうち、設備・公共工事の計2分野を除き、2024年度の島根大学における特定調達品目の調達実績を調査しました。このうち、特定調達品目を調達した19分野・167品目の実績は次表のとおりです。

2024年度における特定調達品目の調達実績

No.	分野	主な品目	総調達量	特定調達物品等の調達量	特定調達物品等の調達率 (%)
1	紙類	コピー用紙、トイレトーパー等	54435 kg	54435 kg	100
2	文具類	事務用品、OA用品等	57129 個	57129 個	100
3	オフィス家具等	椅子、机、什器等	1708 台	1708 台	100
4	画像機器等	コピー機、プリンタ、プロジェクタ等	4387 台	4387 台	100
5	電子計算機等	電子計算機、記録用メディア等	5989 台	5989 台	100
6	オフィス機器等	シュレッダー、一次電池等	4824 台	4824 台	100
7	携帯電話等	携帯電話、PHS等	1065 台	1065 台	100
8	家電製品	冷凍冷蔵庫、電子レンジ等	59 台	59 台	100
9	エアコンディショナー等	エアコンディショナー、ストーブ等	60 台	60 台	100
10	照明	LED照明器具、電球形LEDランプ等	44 個	44 個	100
11	自動車等	乗用車、公用車用タイヤ	10 個	10 個	100
12	消火器	消火器	67 本	67 本	100
13	制服・作業服等	作業服、靴等	288 着	288 着	100
14	インテリア・寝装寝具	カーテン、カーペット等	98 枚	98 枚	100
15	作業手袋	作業手袋	1510 組	1510 組	100
16	その他繊維製品	ブルーシート、モップ等	110 枚	110 枚	100
17	災害備蓄用品	飲料水、レトルト食品等	287 個	287 個	100
18	役務	印刷、清掃、輸配送等	2591 件	2591 件	100
19	ごみ袋等	プラスチック製ごみ袋	27856 枚	27856 枚	100

注1. 各調達数量は、分野ごとの品目全てを集計しています。OA機器の調達量は、リース・レンタルによる数量を含みます。

注2. 紙類のうち、コピー用紙については、契約上の仕様と実際のご紙配合率とに乖離があるものを含みます。

## ①目標達成状況

島根大学の調達方針において、特定調達品目の調達について目標設定を行った品目は、全て100%目標を達成しています。

## ②その他の物品、役務の調達に当たっての環境配慮の実績

環境負荷の少ない製品・サービス等の調達に当たっては、できる限り環境に負荷の少ない物品などの調達に努めることとし、環境物品などの判断基準を超える高い基準のものを調達すること、またグリーン購入法適合品が存在しない場合についても、エコマークなどが表示され、環境保全に配慮されている物品を調達するよう努めました。

また、物品などを納品する事業者などに対しても、事業者自身がグリーン購入法を推進するよう働きかけるとともに、物品の納入などに際しては、可能な限り低公害車の利用に努めるよう働きかけています。

今後の物品などの調達においても、引き続き環境物品などの調達の推進を図り、教育研究上の必要性などを考慮しつつ、可能な限り環境負荷の少ない製品・サービス等の調達率100%を目指して取り組みます。

## 1 快適な学内環境の構築



### ① 教育学部における取組

2024年度は定期的な学部棟内外の巡視を行い、安全で快適な学習環境の保持に努めました。2025年度も危険箇所の修理を順次行っていきます。また快適な教室環境を維持するために、ポスターによる「ごみの放置禁止」「節電」の意識を学生の中に高めていきます。

掲示したポスター

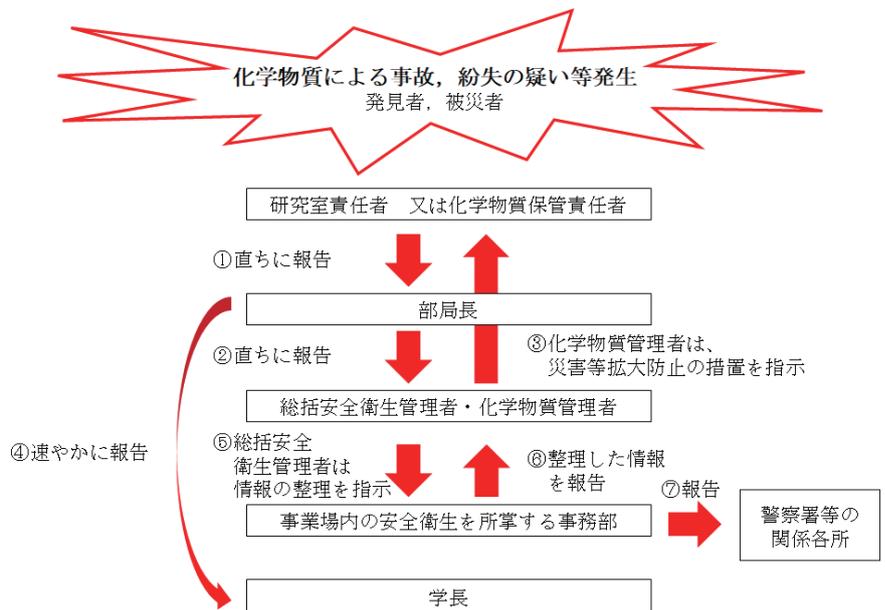
### ② 医学部における取組 —緊急事態テストの実施—



2024年度の緊急事態テストでは鳥根大学化学物質管理・取扱いマニュアルに記載のある異常時の措置の初動窓口である総務課労務管理担当の参加を得て、緊急事態の初期の情報伝達・情報共有その後の対応について確認できました。今後は、様々な状況抽出と適切な対応、適切な管理者への連絡等を確認します。



緊急事態訓練の状況



鳥根大学化学物質管理・取扱いマニュアルにおける異常時の措置フロー



### ③総合理工学部における取組

安全で快適な学内環境維持のため、毎月、学部棟の職場巡視を行いました。また、学生と教職員が使用する学部の印刷室について、故障した印刷機などの撤去、使用しなくなったインクカートリッジを他学部へ譲渡する等の室内の整理を行い、利用しやすい環境に改善しました。2025年度も継続して安全で快適な学内環境の維持に努めます。



【2024年3月の様子】



【2025年2月の様子】

## ②省エネルギー等による継続的な環境改善



### ①材料エネルギー学部における取組

学部発足早々、教職員に対して化学物質の適正管理を含む「安全衛生教育」を行うことによって、化学物質の適正管理に関する意識を醸成することができました。学年が進行し、学生が化学物質を取り扱う際は、学生も含めて「安全衛生教育」を実施する予定です。

#### 本学で確認したヒヤリ事例



コンセントへの浅い接続  
→電気火災を防ぐため、深くさしたり、定期的な目視確認や都度片づけることをお願い

#### 本学で確認した好事例



高圧ガス開栓方法の周知



保護具の徹底周知

安全衛生教育の内容

## ②財務部における取組

節電ポスターの掲示、昼休みの消灯、冷房運転時の扇風機の併用、近隣のフロアへの移動時の階段利用など節電に資する取組を実施しました。

業務分担の見直しや定時退勤の実施などの取組により、部内全ての課で2024年度の超過勤務時間数は2023年度より減少しました。財務課では、時間外勤務時間数が2023年度比で2.5%（74時間）減少しました。経理・調達課では、時間外勤務時間数が全ての月で減少し、2023年度比で24.9%（585時間）減少しました。施設企画課及び施設整備課では、2024年4月から2課体制がスタートし、新学部関連の例年にはない業務も増えたが、時間外勤務時間数は2023年度比で2.2%（109時間）減少しました。また、冷暖房を多く使用する時期についても成果が見られ、省エネルギーに貢献できました。



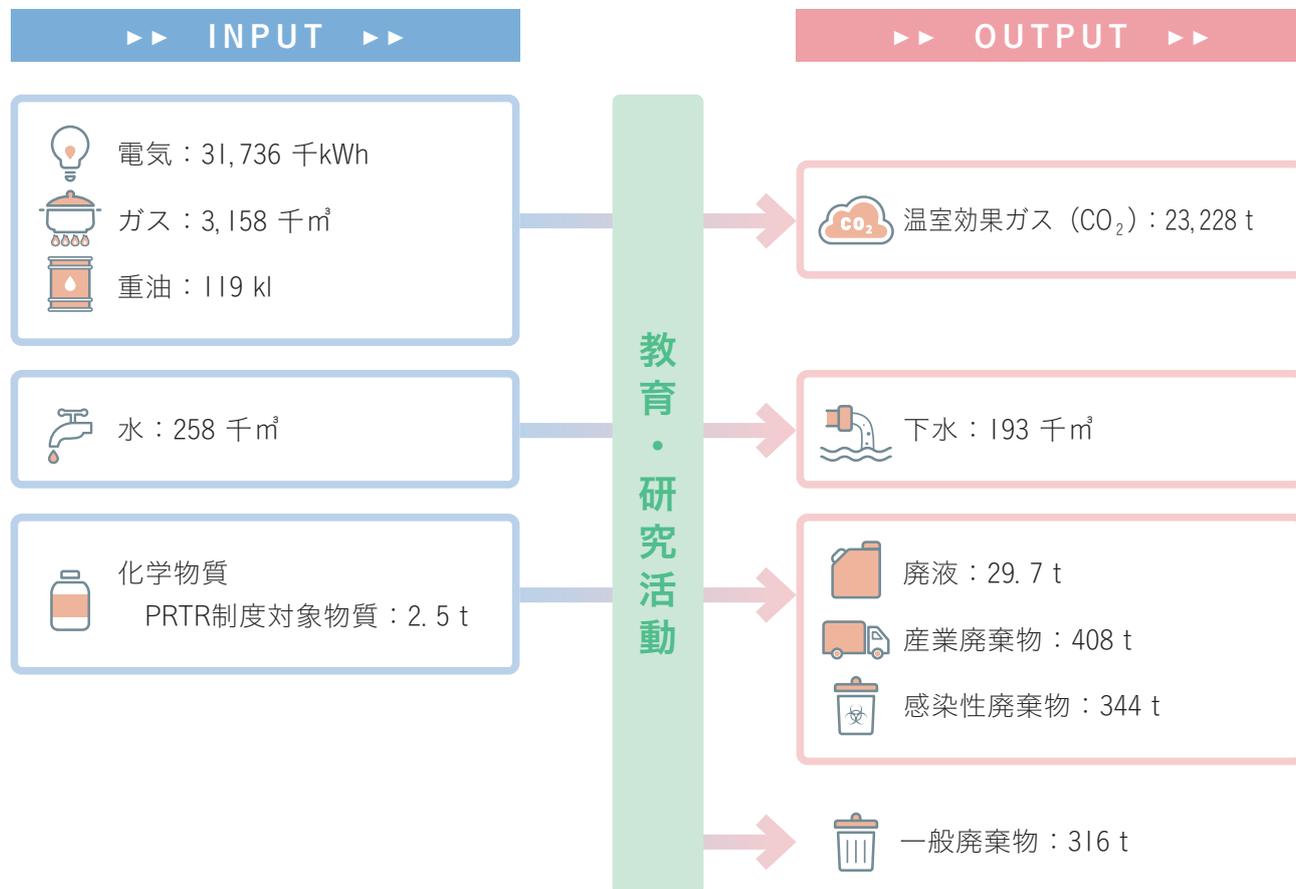
エレベーター乗り場 周知張り紙



エレベーターに関する掲示

## I 2024年度のインプット・アウトプット

2024年4月から2025年3月までのエネルギー消費等は以下のとおりです。



## 2 エネルギー消費等の経年データ

本学で2024年度に消費された主なエネルギーデータを示します。

2024年度は、松江キャンパスにおいて材料エネルギー学部棟及び産学協創インキュベーションセンターが新設されました。建物の新設に伴い、2024年度の松江キャンパスにおけるエネルギー消費等は、重油使用量及び二酸化炭素排出量を除き、2023年度と比較して1.8～19%増加しました。二酸化炭素排出量は2.0%減少しました。

出雲キャンパスにおいても、2024年度のエネルギー消費等は、重油使用量、化学物質投入量及び二酸化炭素排出量を除き、2023年度比較して0.1～45%増加しました。二酸化炭素排出量は0.3%減少しました。

### ▶▶ INPUT ▶▶

#### 💡 電力使用量(千Kwh)



2024年度は、前年度と比較して、0.7%増加しました。主な要因としては、松江キャンパスにおける新棟設置に加え、重油を使用した空調機器の停止に伴う電力及びガス使用量の増加が挙げられます。

#### 🍲 ガス使用量 (千m<sup>3</sup>)



ガスは主に全体空調の運転で消費されます。2024年度は前年度と比較して、5.3%増加しました。松江キャンパスにおける重油を使用した空調機器の停止に伴い、ガス使用量が増加しています。

#### 🔥 重油使用量 (kl)



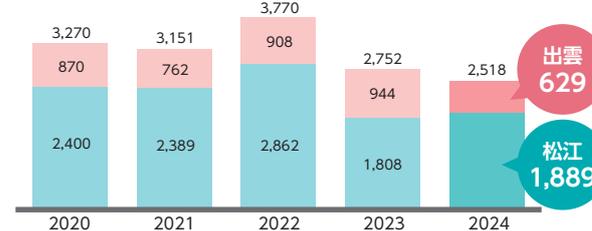
重油は主に全体空調及び非常用発電機の運転で消費されます。2024年度は、松江キャンパスにおいて重油を使用した空調機器の使用停止がありました。これに伴い、全体として前年度と比較し、7.0%減少しました。

#### 🚰 上水等使用量 (千m<sup>3</sup>)



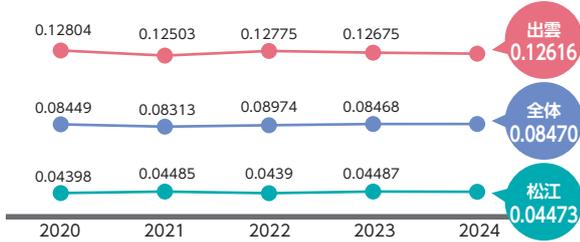
2024年度は、前年度と比較して2.3%増加しました。

#### 🧴 化学物質投入量 (kg)

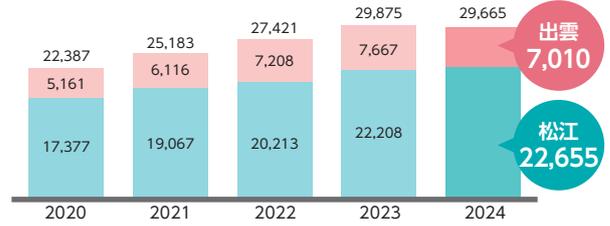


2024年度は、前年度と比べ8.5%減少しました。松江キャンパスでは、材料エネルギー学部等の稼働に伴い、4.4%増加しました。一方、出雲キャンパスは、化学物質を使用した作業の削減により、33%減少しました。

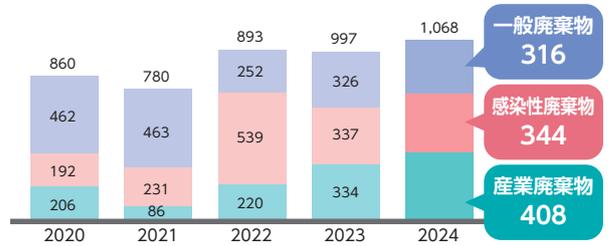
## ▶▶ OUTPUT ▶▶

 二酸化炭素排出量 (t)
建物延面積当たりのCO<sub>2</sub>排出量 (t-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>)

電力及びガスの使用量が増加しましたが、重油使用量の減少に伴い、2024年度は前年度比0.7%減少しました。

 廃液排出量 (kg)


2024年度は、前年度と比べ0.7%減少しました。  
松江キャンパスでは、化学物質投入量の増加に伴い、2.0%増加しました。  
出雲キャンパスでは、化学物質投入量の減少に伴い、8.5%減少しました。

 廃棄物等総排出量 (t)


2024年度は、前年度比約7.1%増加しました。  
一般廃棄物は前年度と比べ、減少しましたが、産業廃棄物及び感染性廃棄物は増加しました。

 下水道使用量 (千m<sup>3</sup>)


2024年度は、上水等使用量の増加に合わせ、前年度比12%増加しました。

### 島根大学環境シンボルマーク

島根大学では教育・研究・医療・社会貢献活動を通じて環境問題に取り組んでいます。

このマークに描かれている葉っぱは環境への配慮を、ペンはあらゆる教育を通じて学習し、さまざまな環境問題に取り組んでいく姿勢を表しています。まさに島根大学の姿勢を表すシンボルマークと言えるでしょう。

島根大学ではこのシンボルマークを環境方針カードに記し、構成員、準構成員(学生)一人ひとりが環境を改善するために何ができるかをカードの裏面に書きとめています。



---

報告書適用範囲 : 国立大学法人島根大学松江キャンパスおよび出雲キャンパス

報告書対象期間 : 2024年4月～2025年3月  
(対象期間外の事項については当該箇所に明記)

公表方法 : 島根大学ホームページにて公表

HPアドレス : [https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/ems/ems\\_report/](https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/ems/ems_report/)

発行年月 : 2025年9月(前回発行年月日: 2024年9月)

---

◆島根大学の環境問題・環境報告書に関するご意見、ご感想をお聞かせください。

島根大学総務部人事労務課

TEL : 0852 (32) 9829

FAX : 0852 (32) 6833

E-Mail : [fpd-mkanmane@office.shimane-u.ac.jp](mailto:fpd-mkanmane@office.shimane-u.ac.jp)